

平成 21 年度日本獣医がん学会 理事会 議事要旨

日時：2010 年 1 月 24 日(日) 12:30～13:30

場所：第 2 回日本獣医がん学会会場

出席者：信田卓男、浅野和之、石田卓夫、井上 明、大塚秀信、加藤吉男、廉澤 剛
川野悦生、川村裕子、児玉和仁、児玉恵子、佐藤敏彦、下田哲也、日高勇一
藤田道郎、堀 英也、圓尾拓也、南 毅生、三宅龍二、山上哲史

欠席者：安藤 純、辻本 元、丸尾幸嗣 (敬称略)

報告事項

1. 2009 年度上半期事業報告として信田会長より以下の事項が報告された

学会誌の第 1 号が無事発刊され、J-stage には 2 月下旬より登録されるが、最終的には PubMed の登録を目標とする。

山根義久先生の第 1 号名誉会員の登録が承認された。

2. 各種委員会・部会より以下の報告がされた

学会企画委員会

- ・今までのテーマと今後のテーマ(8 回まで)のテーマの報告があり、各部会から企画案も求められた
- ・会員の増加に伴い今後広い会場を検討してゆく

学会雑誌編集委員会

- ・ 2 月号より電子ジャーナル化してゆく
- ・ 査読員に 種認定委員にも参加してもらうこととし、依頼する事を認定委員会に提案してゆく
- ・ 石田卓夫先生に英文査読員をしていただく事になった

認定委員会

- ・ 今年度 種に合格した 2 名は認定委員として今後協力していただくこととなった
- ・ 受験者増加に伴う解決策として、試験法変更(4 部屋に増加)する事が認定委員会で承認された
- ・ 種認定医の更新条件とし学会雑誌の投稿義務化追加案が認定委員会で出され、今後前向きに検討してゆく
- ・ 前述の案を受け、大学関係者の先生方に論文指導のご協力を依頼してゆくことも検討中とのこと

専門医制度実行委員会

- ・アジア獣医内科学会での専門医制度を検討しているので、その詳細資料を次回の理事会に提出するため検討する事を希望

JONCOL 編集委員会

- ・ 8号発刊報告
- ・ 今後監集者はおかず、編集委員が代行する

外科療法部会

- ・ 部会の名称について意見が出され、正式名称は日本獣医がん学会外科部会とすることとなった。
- ・ 今後治療のガイドラインの作成（まずは乳腺腫瘍の検討）
- ・ 企画への積極的参加

放射線療法部会

- ・ 飼い主向けホームページを作成し、施設の紹介や日本での本治療の実績を紹介してゆきたい

内科部会

- ・ 今後メールで活動を検討してゆく

病理部会

- ・ 委員の増員
- ・ 部会長より会長に、部会員に対し学会より委嘱状を出すことを学会前に希望した旨の報告があった。（理由：病理医は勤務医が多いため）。会長は、今回の学会前にすでに委嘱状を作成し事務局より送付する旨、実行したと報告があった。なお、今後各部会長は部員の名簿を会長に提出し、学会として正式に委嘱状を出してゆくことが確認された。

今回臨床統計部・国際情報部からの報告はなされなかった。

審議事項

- ・ 来年大阪の開催予定は1月29・30日で場所は本年度と同じ、大阪科学技術センターであるが他の大きい場所も検討中である事の承認を受けた
- ・ JONCOL 編集委員長より、海外講師の講演内容についてデータの保存許可を取り、必要時に JONCOL 用として使用許可をもらうシステムを作る事が提案され承

認された。

提案事項

- ・症例発表から、論文として値する演題に対して、藤田雑誌編集委員長を中心に雑誌への投稿依頼をしてみても、との提案が出された
- ・南理事より、発表内容に病理組織像を出す場合、事前に病理スライドを会員の病理医により確認してもらってはどうか、という提案がなされた。次回学会から、一部の演題に関し可能な限り試行することとなった。
- ・毎年、発表演題が自主的に集まらない事を受け、石田理事より、症例収集委員を作りその委員らに集めてもらうという提案がなされた。

以上